

# PRESS RELEASE

開館 40 周年記念特別企画

ターナーから  
モネへ

ウェールズ国立美術館

# ターナーからモネへ

印象派、光と大気と水のアナザーストーリー

France and Britain : ターナーの朝、モネの夕暮れ

Joseph Mallord William Turner, John Constable,  
Jean-Baptiste-Camille Corot, Jean-François Millet, Honoré  
Daumier, Gustave Courbet, Eugène Boudin, Dante Gabriel  
Rossetti, Edward Burne-Jones, James Abbot  
McNeill Whistler, James Tissot, Camille  
Pissarro, Alfred Sisley, Claude  
Monet, Pierre-Auguste  
Renoir

英国  
ROMANTICISM  
Impressionism  
ウェールズ  
国立美術館

ターナーから  
モネへ

フランス

Art for a New Age

1817-1917

The Paris Salon and The  
London Royal Academy

福井県立美術館 広報担当:野田・椎野  
〒910-0017 福井県福井市文京 3-16-1  
TEL:0776-25-0452 FAX:0776-25-0451  
E-mail: [finearts@pref.fukui.lg.jp](mailto:finearts@pref.fukui.lg.jp) (公用)

# PRESS RELEASE



## 概要 OUTLINE

- 会 期：平成30年4月7日(土)～5月27日(日)＝ 会期51日間  
休館日：4月23日(月)、5月7日(月)＝ 開館49日間
- 会 場：福井県立美術館(福井市文京3-16-1)
- 開館時間：午前9時～午後5時 ※4月7日(土)は午前11時から
- 主 催：ターナーからモネへ実行委員会(福井県立美術館、福井新聞社、FBC福井放送)
- 後 援：ブリティッシュ・カウンシル
- 企画協力：ホワイトインターナショナル

◎問い合わせ：福井県立美術館 TEL：0776-25-0452

◎特設HP：[http://info.pref.fukui.jp/bunka/bijutukan/tokusetu/h30\\_tanamone/index.html](http://info.pref.fukui.jp/bunka/bijutukan/tokusetu/h30_tanamone/index.html)

## 開催趣旨 EVENT DETAIL

英国・ウェールズ国立美術館コレクション30年ぶりの来日！

あのフランス印象派は、イギリスの影響で生まれた？

名画がつむぐ“知られざる物語”

印象派の誕生前夜、モネは、普仏戦争を避けるため滞在したロンドンで、ターナーの作品にふれ、深い感銘を受けました。またイギリスの若い画家たちは、フランスの印象派に影響を受け、自国の美術に新風を吹き込みました。本展は、モネとターナーの出会いに象徴される、百年間にわたる英仏両国の美術の変遷と交流をたどります。イギリスとフランス、両国巨匠たちによる“豊麗なる美の対話”をお楽しみください。

## 観覧料 ADMISSION FEE

【前売り】 一般：1,200円 ペア：2,300円

◎プレイガイド：福井県立美術館、福井新聞社読者センター・支社・支局、ベル、パリオ、エルパ、武生楽市、チケットぴあ(Pコード：768-931)、ローソン(Lコード：54880)、セブン-イレブン

**★前売り期間：2月9日(金)～4月6日(金)★**

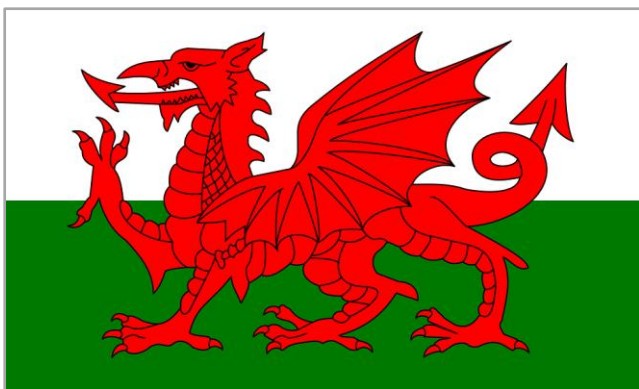
【当日】 一般：1,400円 (団体1,200円) 高校生：800円 (団体600円)  
小・中生：500円 (団体400円)

※団体は20名以上。※障害者および介護者1名は半額。※未就学児は無料。

来館の際はできるだけ公共交通機関を利用してください。えちぜん鉄道、福井鉄道、すまいるバス利用者は、当日券の割引特典があります！

## 「ウェールズ」ってどんなところ？

ウェールズの国旗



ウェールズはロンドンの西方およそ 200 km に位置し、電車で 3 時間半位の道のりです。ウェールズといえばスノードン山をはじめ山岳地帯が連なり、また風光明媚な海岸が広がるなど美しい自然がその魅力の一つとして知られ、古くから多くの芸術家が訪れています。またアーサー王の伝説をはじめ豊かな歴史を持ち、さらに 19 世紀以降は急激な経済成長を遂げ世界的

な産業拠点となりました。その他ウェールズはラグビーの強豪国として広く知られ、日本ではスタジオジブリの「天空の城ラピュタ」のモデルになった場所としても有名です。



ウェールズ国立美術館外観

## 展覧会の見どころ

- ★ウェールズ国立美術館コレクションがまとまって紹介されるのは約 30 年ぶり！
- ★19～20 世紀における英仏美術の展開を、両国の巨匠たちの作品を通じて紹介！
- ★総出品数 73 点！油彩以外に画家の筆使いをダイレクトに伝える貴重な水彩も！
- ★モネ作品 3 点とターナー作品の来福は初！
- ★福井は巡回の最終開催地。どうぞお見逃しなく！



## 展覧会構成

### 第1章 ロマン主義 *Romanticism*

ロマン主義は19世紀初頭にヨーロッパで興った芸術運動で、18世紀に隆盛した新古典主義への反動として、理知よりも感情、客観よりも主観、形式よりも内容、普遍よりも個性をその拠り所とし、それまでの価値体系を根本的に変えました。

いち早くロマン主義的傾向が芽生えたイギリスでは、特に風景画においてその傾向が顕著であり、本展で紹介するターナーやコンスタブルはその代表作家として知られています。フランスでは主に歴史画のジャンルにロマン主義的傾向が窺えますが、その後カラーをはじめとするバルビゾン派へとその精神は受け継がれていきました。

### 第2章 リアリズム *Realism*

近代市民社会の成立と発展を背景に、19世紀中ごろのフランスを中心にリアリズム（写実主義）の絵画が登場しました。アカデミズムが掲げた理想主義と相反する運動であり、単なる写実的な絵画傾向ではなく、同時代の生活や事物を理想化せずに「ありのまま」を描こうとしました。リアリズムの画家として1850年前後にオノレ・ドーミエ、ジャン＝フランソワ・ミレー、ギュスターブ・クールベらが登場し、なかでもクールベはリアリズムの旗手として、印象派をはじめ、次世代の画家に大きな影響を与えています。

### 第3章 パリのサロンとロンドンのロイヤル・アカデミー *The Paris Salon and the London Royal Academy*

フランスでは17世紀半ばに美術行政・教育を統制するアカデミーが創られ、官立の展覧会「サロン」の開催など、画家たちに大きな影響を与えていました。他国でもフランスの例に倣ったアカデミーが設立され、イギリスの「ロイヤル・アカデミー」もその一例です。美術の制度化が進む一方で、1863年にパリで開催された「落選展」に象徴されるように、19世紀後半に入ると歴史画に重きを置く伝統墨守の傾向、あるいはサロンに代表されるされる硬質化したアカデミー制度への疑問が表面化し、革新的な画家たちによって独自の展覧会が組織されていきます。

イギリスでもロセッティ等らにより、ラファエロ以前の芸術、すなわち盛期ルネサンス以前に美の規範を求める「ラファエル前派」の運動が展開されました。以降、イギリス美術は耽美主義的絵画やホイットマンの色彩的調和を重んじた都市風景画などその表現範囲を拡張し、多様な展開を見せていくようになります。

### 第4章 印象派 *The Impressionists*

フランスの官展「サロン」の因襲的な体質に反発したモネやピサロ、シスレーらは、自ら発表の場を求め、1874年、パリのナダール写真館でのちに「第1回印象派展」として知られるグループ展を開催しました。彼らはアトリエを飛び出して戸外制作を行い、移ろいゆく光や大気の一瞬を描くことを目指しました。その試行錯誤のなかで、絵具を混ぜず、細かいタッチを重ねて画面を構成する「筆触分割」という新しい手法を確立しています。

印象派誕生前夜、モネやピサロは普仏戦争を避けるために滞在したロンドンで、ターナーやコンスタブルの作品に接し、深い感銘を受けています。印象派が取り組んだ霧や雲など大気への眼差しには、ターナーをはじめ、イギリスの画家が追求した風景表現への共感に満ちています。

### 第5章 ポスト印象派とその後 *Post-Impressionism and after*

1880年代後半から90年代にかけて、古典主義的傾向や、科学的な色彩理論の応用、人間の内面を重視した象徴主義的な作品など、印象派の感覚主義を乗り越えて多様な展開を見せるようになります。このような新しい動向は「ポスト印象派」と総称され、20世紀絵画の源流として現代まで大きな影響を与え続けています。ウェールズにもこうした新たな刺激を受けて、オーガスタス・ジョンやジェームスディクソン・イニスなど、フランスの最新の動向をとり入れた作品を描いています。

# PRESS RELEASE

Joseph Mallord William  
**Turner**

ターナーから  
モネへ



ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー 《難破後の朝》1840頃



ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー《マーゲイトの沖合》1835年頃

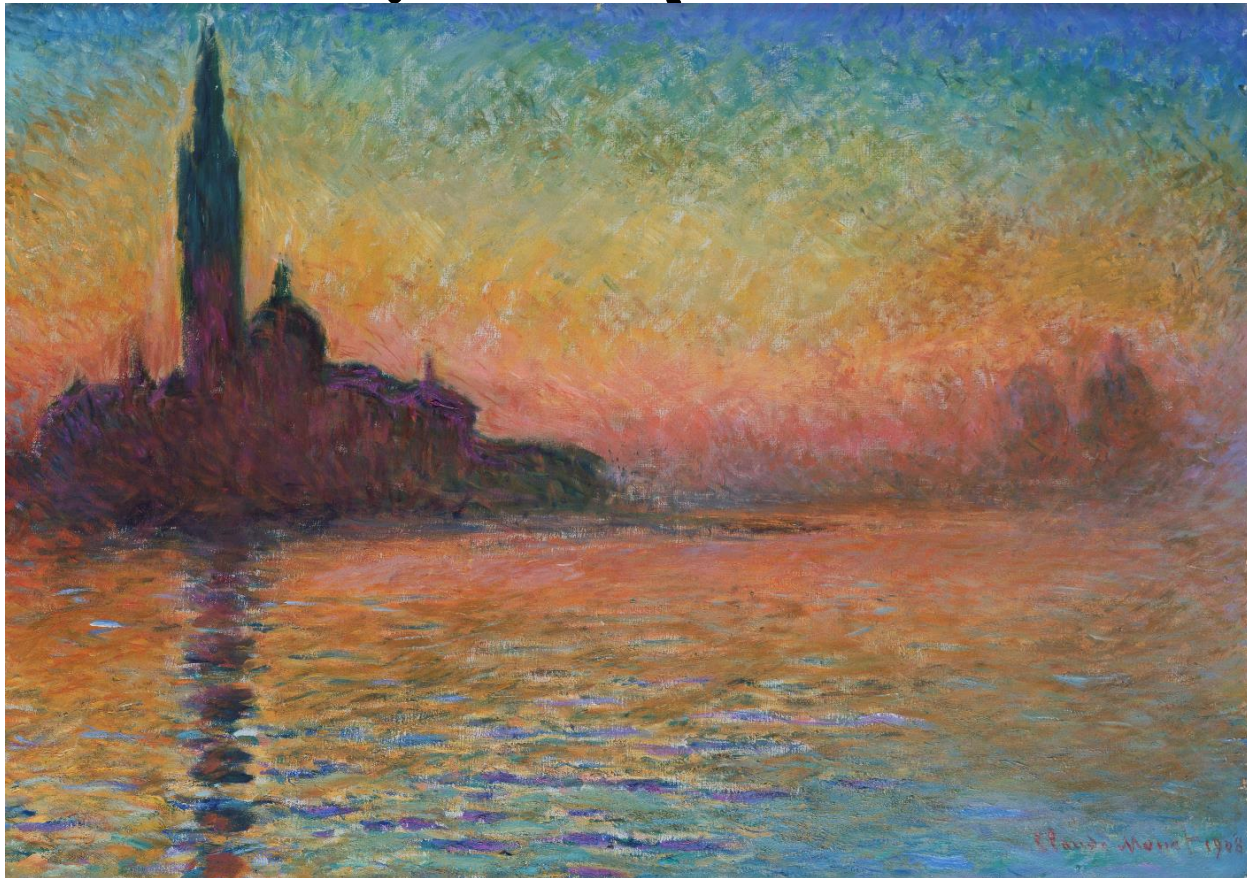
英国最大の巨匠、福井初上陸！  
——崇高なる風景の詩。



**PRESS RELEASE**

Claude Monet

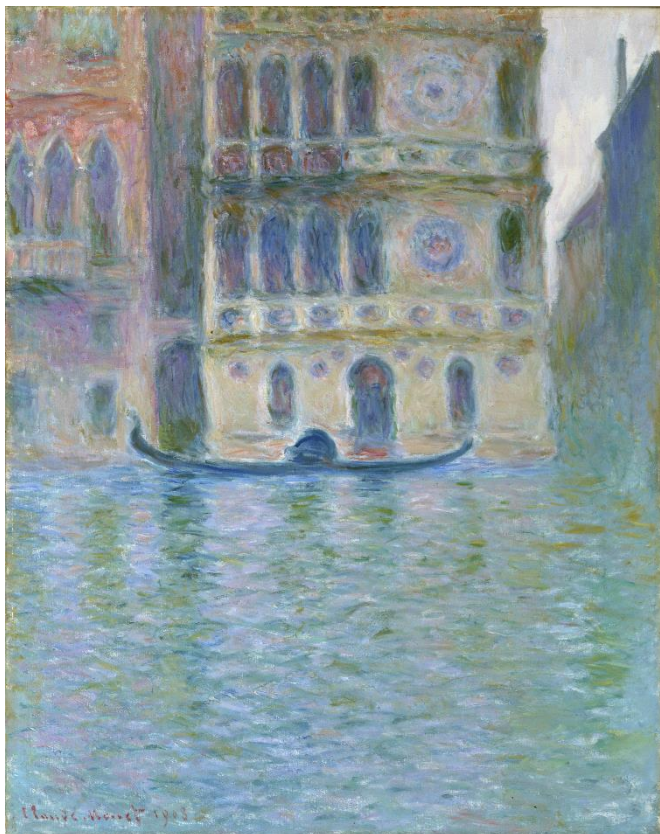
ターナーから  
モネへ



クロード・モネ

《サン・ジョルジョ・マッジョーレ、黄昏》

1908年



「睡蓮の画家」が描く  
ヴェネツィアの水と光。

クロード・モネ 《パラッツォ・ダリオ》 1908年



**PRESS RELEASE**

ターナーから  
モネへ

Jean-François Millet



大自然に翻弄される小さな農民。  
彼に向けられた眼差しは共感と慈愛に満ちている。

ジャン=フランソワ・ミレー《突風》1871～73年

Pierre-Auguste  
Renoir



恋人たちの午後、  
沈黙かそれとも・・・

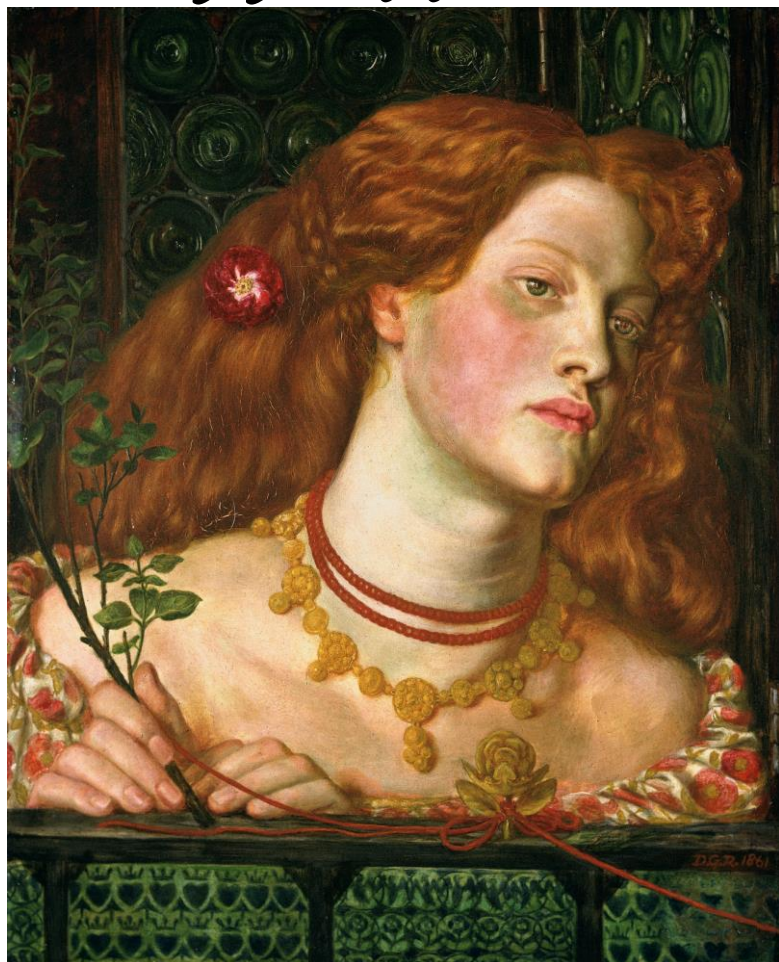
ピエール=オーギュスト・ルノワール

《会話》 1912年



# PRESS RELEASE

Dante Gabriele  
Rossetti



ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ《麗しのロザムンド》1861年

赤い糸、バラ、秘められた愛。

天国か地獄か、  
女神フォルトナが裁く最後の審判。

エドワード・バーン＝ジョーンズ《運命の車輪》1882頃

ターナーから  
モネへ

Edward  
Burne  
= Jones





# PRESS RELEASE

冬から  
七五三へ



- ◆**車** : JR 福井駅(西口)より約 8 分。北陸自動車道・福井北 IC より約 15 分。(無料駐車場有り・約 120 台、身障者用 2 台)  
・福井北 IC をご利用の場合は、福井北 IC より国道 416 号線を西へ進み、「重藤」交差点を左折いただきますと、約 500m で右手に当館が見えてきます。 [福井北 IC 周辺地図](#)(Google マップ内のページへ)  
・国道 8 号線をご利用の場合は、「新保」交差点にて西に曲がっていただきますと国道 416 号線に入ります。そのまま西へ進み、「重藤」交差点を左折いただきますと、約 500m で右手に当館が見えてきます。
  - ◆**コミュニティバスすまいる** : JR 福井駅前西口(6 番のりば)より、**田原・文京方面線**にて約 10 分。県立美術館前下車、徒歩 0 分。
  - ◆**京福バス** : JR 福井駅前西口(2 番のりば)より、23、26 系統・福井総合病院線にて約 10 分。「藤島高校前」にて下車、徒歩 0 分。※日曜日、祝日は運休
  - ◆**えちぜん鉄道** : 福井駅(JR 福井駅東口すぐ)より、三国芦原線にて約 9 分。田原町駅下車、徒歩約 8 分。
  - ◆**福井鉄道(福鉄)** : 福井駅(JR 福井駅西口)より、下り・田原町方面行きにて約 4 分。田原町駅下車、徒歩約 8 分。
  - バス・電車の総合時刻表** (「ばすでんしゃねっと・ふくい」内のページへ)
- ◎最寄りの施設 : 福井県立藤島高校、福井市立図書館  
◎市内には**福井市美術館**もございます。お間違えのないようご来館ください。

来館の際はできるだけ公共交通機関を利用してください。

えちぜん鉄道、福井鉄道、すまいるバス利用者は、当日券の割引特典があります！